

教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒
 明るく思いやりのある生徒
 健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第19号

平成29年10月 6日発行

須賀川市立第二中学校

☎75-2910

発行責任者：校長 高崎則行

支部新人大会を機会に自分を見つめ、さらに前に進め

9月27日(水)、28日(木)、雨天順延となった競技は29日(金)に、中体連岩瀬支部新人総合体育大会が開催されました。(野球部のみ、30日(土)に順位決定戦を行いました。)団体種目では、以下の成績を収めました。

野 球	順位決定戦で県中大会第4位代表		
女子ソフトボール	第1位	バレーボール	女子：第2位
バスケットボール	男子：第2位	ソフトテニス	男子：第3位
	女子：第1位		女子：第1位
バドミントン	男子：第2位	卓 球	男子：第1位
	女子：第1位		女子：第1位
サッカー	第3位	柔 道	男子：第1位
剣 道	男子：第2位	体 操	男子：第1位
	女子：第1位		

今大会を振り返って、本校の場合は、前回よりもいい成績を収めたかどうかだけで評価するのは難しいと感じています。生徒の発言や表情、動作・振る舞い、生徒同士のやりとりなどから総合的に課題や



成果を看取ってあげたいという気がします。

福島大学の川本和久教授が、9月13日の読売新聞に「勝敗が自立心と自信育む」という題で、次のような内容の文章を寄せています。

スポーツは勝敗がはっきりしているからこそ、その結果を通して自分の強み弱みが見えてくる。そこから気づいた課題を、他の誰でもない、自分の乗り越えるべき問題として前向きに頑張ることで「自立心」が強くなる。また、子どもの努力している姿を大人が見守ってくれているという安心感の中で得られる成功や失敗が大きな「自信」を育む。

勝ってもおごらない、負けてもくさらない。これから先があるのです。私もよく「この経験を次に活かそう」「この経験を他の面でも活かそう」と言います。そのために、生徒に自分自身を見つめる機会を大切にしてほしいと期待しています。



■個人種目成績■

ソフトテニス

- 男子：第2位 会田楓輝②・橋本蒼弥②
 第3位 吉田琉晟②・吉田 航①
 同 大和田海斗②・岩本翔太②
 女子：第1位 鎌田美樹②・永沼さくら②
 第2位 遠藤柚葉①・ミヒニャック杏菜②

(※ 次のページに続く)



バドミントン

- 男子・単：第3位 佐藤 諒②
女子・単：第1位 上田彩乃②
第3位 長場由芽②
男子・複：第1位 藤田京平②・上妻浩聡①
女子・複：第1位 角田陽真里②・野村萌②
第3位 尾崎心愛②・八束愛海②

卓 球

- 男子・単：第1位 小枝翔太②
第2位 佐藤 碧①
女子・単：第1位 五十嵐早弥香②
第3位 志波愛華②
同 佐藤 彩②
男子・複：第1位 佐藤紘裕②・小室翔②
女子・複：第1位 荒井七泉②・中野目暖②
第3位 小野くるみ②・緑河煌①

柔 道

- 男子50kg級：第1位 加藤颯野①
同 55kg級：第1位 佐藤優璃②
同 60kg級：第1位 関根大輔②
同 66kg級：第1位 関口陽士②
同 第2位 岡島直輝①
同 81kg級：第1位 加藤陽岐②
同 90kg級：第1位 須釜拓海②
同 90kg超級：第1位 岩本優翔②

剣 道

- 男子：第2位 斑目穂高②
女子：第1位 須田日菜子②
第3位 菊地美衣②
同 黒津あさひ①

体 操 (男子) ※ 種目別成績は省略します。

- 総合：第1位 松川陽芽②
第2位 橋本祐亮①
第3位 内藤大地①

(注) ○に数字は学年です。

吹奏楽部も県大会出場 深みと迫力を増した演奏

9月29日(金)に開催された岩瀬地区音楽祭(第2部 合奏)で、本校吹奏楽部が金賞を獲得。10月12日(木)に福島市音楽堂で開催される県大会の出場権を射止めました。

1ヶ月前のTBC・TUFこども音楽コンクールの時の演奏と比べても、演奏に深みを感じられて、音が聴衆に飛び込んでくるような迫力さえあり、上達ぶりが明らかでした。

吹奏楽部員には、「相手に勝つための演奏はない。作り上げたい音楽のイメージを全員で共有し、どれだけそれに近づけるかです。結果は後からついてきます。」と言いましたが、期待が大きかっただけに、結果に「ホッとした」というのが正直な感想です。



写真はマメタイムスさんにご提供いただきました。

ことばの力⑥ 人から言われてやった練習を努力とは言わない。

TVアニメでも放映された野球マンガ「MAJOR」。私の息子が全巻そろえて愛読していたので、私も読み通しました。この言葉を抜き書きしたのは10年以上も前のことです。主人公の茂野吾郎が挫折してチームを去ろうとしたチームメイトに言った言葉だったと記憶しています。

ちなみに、この言葉に出会う以前から、私は「あと一步の努力は自分からしなさい。」「調子の悪いとき、苦しい場面での頑張りか、本当の頑張りだよ。」と生徒に呼びかけてきました。

さて、前の言葉を裏返すと、「自分から進んでやった練習を努力というのだ。」という意味にとれます。「人から言われてやった練習」と「自分から進んでやった練習」とはどこが違うのでしょうか？中学生はどんな答えを見いだすのか、楽しみにして見守りたいと思います。その答えは、部活動だけでなく、勉強でも仕事でもあてはまることでしょう。

今、茂野吾郎の息子を主人公にした「MAJOR2」が連載中です。こちらは、お父さんと違って才能に恵まれたとはいえない息子が、基本からしっかり学び、心も技術も成長していくストーリーで、少年野球の教本としても読めるマンガになっています。

この学校だよりは、本校HPからもご覧いただけます。